



全身疾患（高血圧、糖尿病、心臓病、腎臓病など）で、地域の歯科医院では治療が困難な人などには、必要に応じてかかりつけ医と連携をとりながら治療を行なっている。



「口腔の専門家として、さまざまな臨床研究を行ない、口腔機能管理の効果について科学的根拠を示すとともに、学会や論文で発信していきたい」と今後の展望を語る向井教授。

## 医療最前線

»»vol.72

川崎医科大学附属病院  
歯科・口腔外科

Report!

# 口腔の健康は、全身の健康 口腔の総合的な医療を実践

川崎学園が取り組む  
新しい「総合口腔医療学」のカタチ。

近年、口腔内の疾患の状態が、いくつかの全身疾患に関係していることが実証されつつある。たとえば、歯周病菌は、心臓疾患や糖尿病、誤嚥性肺炎などさまざまな疾患に影響をおよぼすことがわかってきている。また、全身麻酔の手術では、口腔内のトラブルを解消することがより早い回復につながるかとされている。そうした疾患や手術などに対する口腔機能管理の重要性に鑑み、二〇一八年、川崎医科大学に新設されたのが、「歯科総合口腔医療学」である。当教室を率いる向井隆雄教授は、同附属病院歯科・口腔外科部長としても現場の最前線で活躍している。一般的にはまだ聞き慣れない「歯科総合口腔医療学」について尋ねた。「従来、歯科と医科が一体的に医療を提供することは少なく、また、歯科を有する大学病院は全国的に多いわけではありません。当教室は、口腔を全身の機能のひとつとして捉え、口腔の医療を総合的に提供するという独自の概念のもと新設されました」。他診療科との連携では、骨吸収抑制剤（骨粗しょう症の薬など）投与患者の顎骨壊死予防や治療、睡眠時無呼吸症のための口腔内装置作製など高度な口腔医療の提供に傾注している。さらに多職種連携で実施される入退院サポートの一環として、手術における周術期（術前・中・後）口腔機能管理は、歯科

## Dental & Oral Surgery

「周術期口腔機能管理」は2012年から保険適応となった。全身麻酔手術、化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植を受ける患者の口腔機能管理や、誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアは支持療法としても今後さらに重要になると考えられている。



向井隆雄 教授  
Mukai Takao  
■ 専門医  
日本口腔外科学会専門医  
日本有病者歯科医療学会専門医

小学生のころから剣道に打ち込み三段を持っています。辛抱強く剣道を続けたことで忍耐力が養えたと思っています。今は息子ふたりも習い始めて、稽古のある日には道場への送り迎えが私の役目になりました。楽しみながら続けてくれたらいいなと願っています。

医師、歯科衛生士により行なわれている。これは、おもに全身麻酔の手術で想定される肺炎などの術後合併症や気管内挿管時の歯の損傷といったリスクを予防し、より早い術後回復につなげるのが目的だ。「従来の治療中心の口腔外科の役割に加え、ほかの診療科や職種と連携し、口腔機能の維持・回復・管理を行なう時代になっていると考えます。また、埋伏歯の抜歯や他疾患により対応が難しい処置などに対応できる「街の歯医者さんの中核病院」としての役割も担っており、専門性が求められる治療の提供にも力を入れています」と向井教授は語る。

医師としての想いを尋ねると、「患者さんは不安を抱いて、ここに来られます。だからまず大切なのはきちんと話を聞き、寄り添うことです。病状や治療方針をていねいに説明し、納得してもらうことで、不安を解消できるよう努めています」と向井教授。超高齢社会を迎え、注目されている「オーラルフレイル（食べこぼし、むせ、滑舌低下といった口腔機能の衰え）」に対しても今後積極的に取り組みたいと考えているとのこと。「口腔の健康から体と心の健康を、の想いを表現するため、当科の試みはさらに続く。」

お問合せ  
川崎医科大学附属病院  
倉敷市松島577  
☎0874621111  
<https://h.kawasaki-m.ac.jp>